

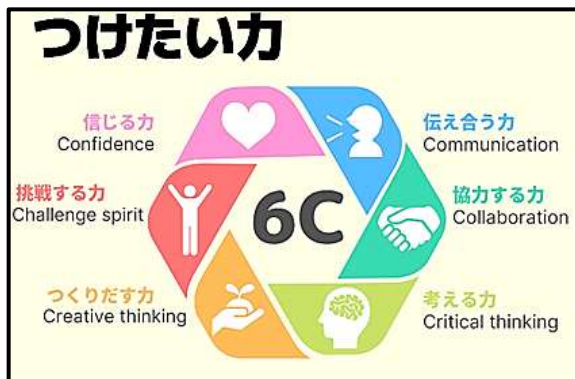
## 愛川町立半原小学校

研究テーマ：「未来型授業(SDGs×STEAM×GIGA×PBL)」で未来社会を切り拓く力を育む

### 1 実践の目的

子ども達が生きていく未来社会は、不安定・不確実で予測困難な「VUCA」の時代と言われている。

そこで、OECDが提唱する『ラーニング・コンパス 2030』を参考に、これからの時代を生きていくために必要な「未来社会を切り拓く力」として、本校独自に次の「6Cの力」を設定した。



いずれも、英語に訳すと全て「C」で始まる6つの力である。

### 2 実践の内容

2023年度は学校創立150周年を記念する年度。そこで「半原のよさ みんなに届け！」を学校全体の学習テーマに掲げた。

子ども達が自分達の住む半原という地区のよさを再発見すると共に、諸課題を解決しながら、あるべき半原の姿を考え、町内外に半原のよさを発信していく協働的な学習である。

その際、「SDGs」の17の目標を学習課題に絡め、「STEAM」教育が成立

するように、教科横断的にカリキュラムマネジメントを行った。また、どの時期に何を行うのか、子ども達にも他学年の先生達にも可視化して説明できるよう、次の「未来型カレンダー」を全学年で作成した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	アップとルーズ で伝える	おれおれ を伝えよう					感動を言葉に と表し方					
算数M												
理科ST	季節と生物(春)	季節と生物(夏)	季節と生物(秋)	季節と生物(冬)								
社会T	ごみはどこへ	水はどこへ (霞ヶ浦ダム)					地域を受け継がれ てきたもの				わたしたちの居る まちづくり	
総合TE	半原のよさを知ろう						守ろう！半原の自然					
特活												150周年 記念フェス
道徳	みんなのため にできること	自分たちに できること										実践の証 水体験
図工A												わくわくネイ チャーランド
音楽A												思いきにつたわる 音楽を聞こう
学行												

そして、学習を進めるにあたっては「GIGA」スクール構想で整備されたICT環境をフル活用し、「PBL」の探求的プロセスを進めていった。

この「SDGs」「STEAM」「GIGA」「PBL」の相乗効果を図る授業スタイルを「未来型授業」と名付けた。

なお、「未来型授業」を進めるにあたっては、次のような各分野の専門家を招聘して研修会を実施した。

各学年の授業実践内容は次のとおり。

### ■ 1年生：『半原の自然とお友達大作戦 ～春・夏・秋・冬で遊ぼう～』

半原には豊かな自然があふれている。そこで、子ども達は五感をフル活用して季節を体感し自然を楽しんだ。秋は学校のお兄さんお姉さんにも、秋を楽しんでもらう「なかよしわくわく祭り」をゴールにPBLに取り組んだ。

### ■ 2年生：『勝手に観光大使』

年間12万人も訪れる愛川ふれあいの村の来村者に、「半原のよさ」をクイズ形式にして伝えることになった。そこで、学区探検で学んだことをデジタルクイズにまとめ、「半原の魅力MAP」上にKeynoteでクイズ作り



### ■ 3年生：『おもしろ半原 大はっくつ』

子ども達がオンライン交流するのは、600kmも離れた場所にある徳島県松茂町立喜来小学校の同じ3年生の子ども達。



日本一おもしろい学校を目指す半原小学校と半原の魅力の動画を作成し、喜来小学校に届けた。

### ■ 4年生：『守ろう！半原の自然 ～ミライのYouTuberはキミだ～』

価値ある半原の自然を20年後の未来に残すには、より多くの人達に半原の自然の素晴らしさを知ってもらうこと。そのためにYouTubeを活用することになった。

### ■ 5年生：『どこでもドアで過去・現在・未来へタイムスリップ』

その昔、半原は生系の町として繁栄し、映画館やボーリング場、銀行や役場まであったことを知り、とても驚く子ども達。そ

して、半原の未来をさらに良くするための提言内容をCMにまとめることになった。

### ■ 6年生：『笑顔の輪を広げよう ～つなぐ・つながる半原～』

半原の良いところは温かい人達がたくさん住んでいること。そこで、自分達を含めた半原に住む人達の絆を深め広げていこうと5つのプロジェクトチームが結成された。プログラミング・あいさつ・読み聞かせ等の各チームは、自分達の力でプロジェクトを企画・計画・実行し、笑顔の輪を大きく広げた。



## 3 実践の成果

子ども達は学年テーマに向かって、主体的・対話的・協働的に学びを深めた。

アンケート結果を待つところではあるが「6Cの力」を着実に伸ばすことができた手応えをひしひしと感じている。

また、次の学校評価（児童アンケート）の結果を見ても、授業に関するA評価のポイントを大きく伸ばすことができた。

上段：令和5年度	A	B	C	D
7 授業は、楽しい。	67	21	8	4
8 授業で学習していることや勉強のやり方が理解できた。	56	39	5	0
9 授業で自分の考えをまとめたり発表したりすることができた。	45	35	17	3

なお、本研究に関する旅行雑誌風研究冊子を500部作成し、保護者や地域、学校関係者等に配付する予定である。

## 4 今後の展開

次年度は「未来型授業」と「インクルーシブ教育」の相乗効果を図るために、「交流」をテーマに研究を進める。そして、「6Cの力」をさらに育てていく。